

# 広葉樹集団枯損の実態と発生機構の解明に関する研究

平成12年度～14年度（県単）

佐野 明

カシノナガキクイムシが媒介するRaffaelea属菌類によると思われる広葉樹の集団枯損が、1980年以降、本州日本海側の地域において発生し、問題となっている。1999年の夏に、これまで被害報告のなかった本州太平洋側、すなわち三重、奈良および和歌山県の3県が接する県境部に発生した。そこで、被害実態とその推移を把握するため、現地調査を実施した。

三重県南部（尾鷲市、北牟婁郡、熊野市および南牟婁郡）において、カシノナガキクイムシの穿入によると考えられる枯死木の分布を調べた。さらに、南牟婁郡紀和町に固定調査地として4か所のプロット（30×30m）を設置した。プロット内に見られる胸高直径6cm以上のすべての木本に個体標識をつけ、その樹種、胸高直径、カシノナカキクイムシの穿入孔の有無および葉の褐変枯死状況を記録した。調査は2001年9月に行い、1999年および2000年秋の調査結果と比較して、被害の推移状況を調査した。なお、本研究は三重大学、紀北および紀南県民局生活環境部と共同で行った。

1999年に尾鷲市、熊野市、南牟婁郡御浜町、紀和町および紀宝町で広く確認された枯死被害は、2000年には被害本数が激減し、2001年には枯死木は確認されなかった。

固定調査地内においては、コナラ、ウバメガシ、アラカシおよびコジイに穿入孔を認め、コナラでは葉の萎凋が見られたが、枯死したものはなかった（表-1）。このように短期間で被害が終息したのは、日本海側では見られない傾向であり、今後、その原因についても、検討を加えていく予定である。

表-1. 樹種別被害状況（2001年9月調査）

樹種	計	被害度			
		A	B	C	D
クロマツ	2	2	0	0	0
アカマツ	1	1	0	0	0
ツガ	2	2	0	0	0
スギ	1	1	0	0	0
ヒノキ	21	21	0	0	0
ヤマモモ	2	2	0	0	0
アカシデ	17	17	0	0	0
コナラ	33	31	0	2	0
ウバメガシ	27	24	3	0	0
ウラジロガシ	2	2	0	0	0
アラカシ	41	38	3	0	0
コジイ	87	84	3	0	0
クリ	3	3	0	0	0
サクラsp	11	11	0	0	0
リンボク	1	1	0	0	0
アカメガシワ	16	16	0	0	0
ハゼノキ	8	8	0	0	0
ヌルデ	2	2	0	0	0
ソヨゴ	1	1	0	0	0
クロガネモチ	2	2	0	0	0
ゴンズイ	1	1	0	0	0
ウリカエデ	6	6	0	0	0
モッコク	2	2	0	0	0
サカキ	14	14	0	0	0
ヒサカキ	4	4	0	0	0
タカノツメ	2	2	0	0	0
アセビ	2	2	0	0	0
ネジキ	11	11	0	0	0
シヤシヤンオ	1	1	0	0	0
リョウブ	10	10	0	0	0
カキsp	6	6	0	0	0
クロバイ	5	5	0	0	0
エゴノキ	3	3	0	0	0
キリ	1	1	0	0	0

数字は本数を示す。A, カシノナガキクイムシの穿入孔なし；B, 穿入孔はあるが、葉の変調なし；C, 穿入孔があり、変調もあり；D, 枯死。

2000年以前に枯死・折損したものは除外した。